

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 塔野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

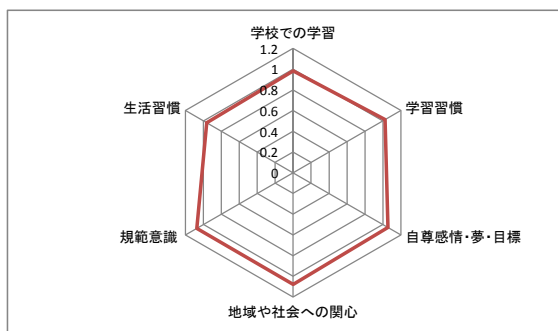
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、書く能力については基礎ができていた。 ・話す・聞く力を問う問題に課題があり、筋道を立てた話し合いや聞く態度などを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	自分が想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題の正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率と同程度で、昨年度よりも上昇傾向にある。 ・話す・聞く問題に課題がある。話し手の意図を捉え、自分の意見と比べながら考えをまとめる問題で課題がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よってきた問題	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題の正答率が特に高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題の正答率は低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、昨年度よりも下降傾向にある。 ・数量や図形についての知識・理解に関する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	分度器を用いて、180度よりも大きい角の大きさを求めることができる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることが必要な問題の正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、昨年度よりも下降傾向にある。 ・数量や図形についての知識・理解に関する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360度になっていることを記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める問題の正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っていたが、自然事象についての知識・理解の基礎的な内容が身に付いている。 ・観察・実験の技能に関する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解しているかを問う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動, 家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書を好きな児童の割合は増加した。 ・新聞を毎日、読んでいる児童の割合は増加した。 ・朝食を毎日、食べている児童の割合は全国平均よりも低く、昨年度よりも減少した。日頃から、朝食を食べるように声をかける必要がある。 ・将来の夢や目標を持っている児童の割合は全国平均よりも多いが、昨年度よりも減少した。日頃から夢を抱くための手立てとして、具体的な目標を設定させていく機会を設定する必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・朝のチャレンジタイムでMIMを活用し、書く力と言葉の力を高める学習に取り組んでいる。
- ・学校全体で1時間の授業で学びボードという学び合いのためのボードを活用して、自分の考えを交流できる時間を設定している。
- ・放課後学習の時間で、算数や理科などのプリントに取り組み、基礎的・基本的な内容の定着を図っている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・1週間の学校生活や家庭での自学、宿題などを児童自身が振り返り、家庭と学校がその状況を把握し、励ましていくための「とうのびっこカード」を作成し、学習内容や時間の把握に活用している。カードに励ましのコメントを書き、学校や家庭での生活習慣の確立を目指している。